

第5回 築地まちづくり検討委員会に係る打合せ会

議事概要

1 日時

平成30年12月4日（火） 13時55分～15時30分

2 場所

東京都庁第二本庁舎 10階 会議室209

3 出席者（敬称略）

岸井隆幸、宇田左近、中井検裕、安藤参与、邊見参与、検討委員会事務局（東京都）

4 意見の概要

○まちづくり方針総論

- ・同程度の規模だと、地政学的にシンガポールに勝てない。
- ・この再開発を検討するに当たっては、周囲を含めた広い絵で考える必要がある。浜離宮などを含めて世界と差別化できるかなと思う。

○都市基盤施設の方針について

- ・環状第2号線のデッキについて、将来的に軽いモビリティが動くと思えば、それなりの幅員はあった方がよいと思う。
- ・地区全体のインフラ整備について、誰がつくるのかという問題がある。全体の基盤整備について、どうやって費用負担させるかという話がある。
- ・どのくらいの基盤をつくらなければならないのか、試算はしておいた方がよい。

○土地利用の方針について

- ・環状第2号線をどの程度の制約条件と考えなければならないのか、大幅につなげることで一体開発ができないのかどうか検討すべき。

- ・機能について、今世の中的にはウェルネス、アート、スポーツなど様々なものがあるが、とにかく集客施設として人を集めるというコンセプトがあった方がよいのではないか。
- ・おもてなしゾーンを先に着工するのであれば、浜離宮と一体という施設コンセプトで、質の高い会議室をおもてなしゾーンに寄せてつくるという考えもあるのではないか。浜離宮はユニークベニューとして、価値が高い。浜離宮を借景とした展示場や会議室など、売りになる。中央の大規模なスペースを図のように半分にしてしまうのは将来的にもったいない。
- ・質的な面からいうと、文化的なものとか、ウェルネス、スポーツ、アートなど、食もその一つに入ってくるかもしれない。
- ・ヘルスケアを考えてみたときに、病院の病床をつくるわけにはいかない。
- ・AIなどと言われているからこそ、より人間的なものをここに集めて、あえて集まる場所をどうするのかを考える。
- ・浜離宮は徳川の文化、隅田川の上流は庶民の文化、築地はその二つの文化を体現できる場所。武家の文化と庶民の文化が両方感じられる場所のコンベンションだからこそ意味がある。舟運も整備して、こういう場所でみんなが集まって議論するというのは非常に面白いということを伝えたい。
- ・段階的整備の順序を踏まえると、大規模交流施設ゾーンと産業産出ゾーンは一体にするのもありではないか。水辺の顔づくりゾーンは幅が広くて川沿いにもものすごい施設をつくるイメージを与えてしまうのではないか。
- ・水辺や浜離宮といった資源を最大限に活かしたものをつくってもらいたい。
- ・本願寺など周辺の文化財などを生かすということをもう少し考えたほうがよい。

○段階的整備の進め方について

- ・大規模な敷地だが、全範囲を一気に開発できない中で、どれくらい大規模な敷地をとっておくべきなのか考える必要がある。
- ・まずは水辺に注力して、地域の価値を上げることが全体にとって重要。次に地下鉄がきたときにもう一段階上げるというイメージ。